

担当教員 飯田 卓		Instructor Name IIDA Taku		
開講期 前期	Class Starts at 1 st Semester	開講期間 半期	Period One Semester	対象年次 / Suggested Grade 3,4,5
科目コード / Subject Code 20DCSc01		単位 / Credit 2		
科目名称： 比較技術研究 I		Subject: Lecture I (Anthropology of Technology)		
<p>授業概要：</p> <p>技術の変化と持続——人類学的芸術論における様式の検討を出発点として</p> <p>Change and Continuity of Technology with Consideration of Style in Anthropology of Arts</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 講義と演習 ・ フランツ・ボアズ『プリミティヴアート』などをテキストとして、技術や芸術の様式に関わる文化的小よび物理的な諸要素について理解を深める 				
<p>教育目標・目的：</p> <p>理解の進捗に応じて、技術革新や創造など、様式を革新していくいとなみについても適宜文献を指示し、理解できるようにする。また、様式というテーマをとおして、物質文化や技術、芸術といった広いテーマを文化人類学的に議論する視点を習得する。</p>				
<p>授業計画：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 対象としてのプリミティヴアート アートや生活道具、博物館生活資料とのちがいや重なりを解説する。 ② プリミティヴアートにおける技巧 装飾の条件、シンメトリーとリズム、熟練と独創など、技巧の諸側面を解説する。 ③ 象徴的表象と写實的表象 表現されたものの意味について、また人類学的な研究がその読解にいかに関与するかについて解説する。 ④ 意味と様式 一定の地域または時代に生ずる共通性について解説する。 ⑤ 装飾を構成するかたちの諸要素 なんらかの具象物が、写実や抽象化によって、装飾全体を構成する諸要素と結びつくようすを解説する。 ⑥ 作りかたの技巧と要素の関係 素材と道具、身体技法といった技巧と要素の形状との関係を解説する。 ⑦ 諸要素の配置 要素がパターンとして配置されるうえで神話などの観念がはたす役割を解説する。 ⑧ 全体のかたちへの統合 装飾がほどこされる道具の形状やその使いかた、支持素材などにより、パターンがさらに複合さ 				

れていくようすを解説する。

⑨ 音楽と儀礼における技巧と様式

無形のことがらに関して、有形のプリミティブアートとの比較をおこなう。

⑩ 道具製作における技巧と様式

物質文化のうちでも機能的な道具に関して、プリミティブアートとの比較をおこなう。

⑪ 漁具の分類と様式

漁具を具体例として、道具の形態や様式と素材、製作技法、使用技法との関連を解説する。

⑫ 民俗知識と技術

素材の選択と製作技法、使用技法の重要性を指摘し、技術変化のさまざまなパターンを解説する。

⑬ 様式の変化と創造

技術や様式の変化と持続の区別に着目し、伝承をもたらす社会的背景および個人的背景について解説する。

⑭ 様式の持続と伝播

様式の変化や地域的広がりについてのいくつかの理論を解説する。

⑮ 現代における様式の有効性

商品の流通とイノベーションが進むなかで製作者と使用者・鑑賞者の距離が開くことで、様式のもつ意味が変化している現状を解説する。

成績評価：

- ・ 事前課題 50% (様式に関わる諸要素について、参考文献などをレビュー)
- ・ 授業内容に関わる討論への参加 10%
- ・ レポートと発表 40% (学生自身の研究を授業との関わりで掘りさげてまとめる)

実施場所：

国立民族学博物館本館 4階第1演習室、ただし部屋使用状況や受講人数に応じて変更する可能性がある。

使用言語：

日本語

教科書・参考書：

フランツ・ボアズ『プリミティブアート』大村敬一(訳)言叢社、2011年(原著1927年)。その他に、各回の授業時間にプリントを配布する。

備考：

文化人類学または生態人類学に関して基礎的な知識を有することを履修の要件とする。参考文献を事前に読み、授業終了時に示す課題については、その次の回までにレポートを作成すること。

地域文化学専攻・比較文化学専攻の学生のみ履修可。